



2023.10月

会員の皆さん、こんにちは。10月15日(日)に令和5年度のつかさ会秋の講演会が開催されました。今年は、健康体力増進グループ バーニングハートの塚 岳伸先生に糖尿病治療における運動療法のポイントについてご講演いただき、継続可能かつ効果の高い運動を、実際に体を動かしながら学ぶことができました。参加いただいた方々には御礼申し上げます。

そして、今年も「全国糖尿病週間」の季節がやってきました。毎年11月14日を含む1週間は「全国糖尿病週間」となり、糖尿病に対する知識をより深めて頂く機会となっています。今年は11月13日～17日に、大学病院内にて糖尿病の知識、治療に関する掲示を行います。外来の待ち時間などには是非お立ち寄りください。

また11月12日には岐阜グランドホテルにて「世界糖尿病デー 県民記念セミナー」も開催されます。参加申込みが必要ですが、ご興味のある方は是非会場にお越しください。

さて、今月のさかえの読みどころを当科 坂野(ぼんの)先生に紹介していただきます。



岐阜大学医学部附属病院糖尿病代謝内科の坂野聖弥です。今月号のさかえの特集は「周術期の血糖管理(P.5)」と「スマホのアプリを使って楽々一朝はかるだけの体重管理(P.17)」です。

手術前に治療強化や糖尿病治療のための入院をご経験された方もいらっしゃるのではないのでしょうか。普段から糖尿病治療をきちんと行うことはとても重要なことですが、手術前後の血糖値を良好に維持することも同じように重要です。ひとことで手術といっても心臓や腹部を対象とした長時間にわたる大きな手術や、1時間以内で終了するような小さな手術がありますが、手術の大小にかかわらず血糖値が高いことで合併症を起こす可能性が高くなります。血糖値が高いと傷口の治りが悪くなり創部感染(手術部位で感染が起こること)や肺炎などの感染症を起こす可能性が大きくなります。このような手術に関連する合併症は入院期間の延長や死亡につながることもあるため、手術前後の血糖管理は重要です。予定手術の場合、おおまかな目安としてHbA1cが7~8%以上の場合には術前に糖尿病治療のための入院が必要となる場合があります(HbA1cについては本誌のP.52に詳しく説明されていますので、ご興味があればぜひご参照ください)。緊急で手術を行わなければならない場合は術前に糖尿病治療を調整することができないため、普段から糖尿病の治療を行うことが重要となります。いずれの場合も、入院中はインスリン中心での治療に切り替えることが多く、入院前の治療法と大きく切り替わることに不安を感じる方もいらっしゃるかもしれませんが、安全に手術を行うためなので安心していただければと思います。さて、ここまで周術期の血糖管理についてお話させていただきましたが、特集でも詳しく解説されておりますので是非ご一読ください。疑問点や不安がある際には主治医や医療スタッフにぜひご相談ください。

皆様が糖尿病と向き合いながら健康な生活を送るのに「さかえ」がお役に立ちますと幸いです。最後になりますが、朝晩の冷え込みも増してきたので体調にはお気をつけてお過ごしください。

